

今の日本に、アメリカに対して原爆投下の謝罪を求めたり、核廃絶を世界に呼びかける資格はない。

日本が真珠湾を攻撃しアメリカ人を殺害しなければ太平洋戦争は起こらなかった。太平洋戦争がなければ原爆投下もなかった。真珠湾攻撃を反省・謝罪しない限り日本に原爆投下の謝罪を求める資格はない。

アメリカと軍事同盟を結んで、アメリカの傘の下に入って核兵器を享受している限り日本に核廃絶を世界に呼びかける資格はない。

なら、日本はどうすべきか。

太平洋戦争末期、さすがの日本軍部も戦争継続の不可能さを認識して日露戦争のときと同じように第三国への休戦仲介依頼を目論んで仲介役として当てにしていたソ連が進攻してきた時点で、日本の終戦は時間の問題であった。従がって、原爆投下の目的は戦争を終わらせるためではなかった。それは、戦後世界における覇権（軍事的支配権）を掌握し、ソ連を含む全ての諸国を拝跪おきせしめるためであった（1949年8月の早すぎるソ連の第1回核実験成功によって、その目論みはずれ、本格的に冷戦が始まったが）。日本は、先制（宣戦布告前）攻撃という国際法違反の真珠湾攻撃で戦争を起こしたことを反省・謝罪したのち、覇権掌握という国家利益のために残虐兵器使用という国際法違反の原爆投下を断行したことへの反省・謝罪を求めるべきである。

また、日本は、「アメリカとの軍事同盟解消＝アメリカの傘の下からの離脱」を行って、核廃絶を呼びかける資格を得て、呼びかけに説得力を持たせるべきである。なお、アメリカとの軍事同盟（＝武力）なしで侵略を防ぐ方法については「侵略を武力なしで防ぐ道」（↓下記URLをクリック）をご参照ください。

<http://fileshelf.cocolog-nifty.com/blog/2016/02/post-e4ac.html>